

## 事例マニュアル：2014年度 蜂谷戸支隊 スタンドパイプ放水訓練実施記録

### <記録の主旨>

今後スタンドパイプを使う消火訓練を企画・実行するときの参考に供するために、2014年度蜂谷戸支隊の実施記録を残す。文中個人名(あるいは役割名)は後の質問の便宜のために記す。

注：“事例マニュアル”は事実をそのまま記して参考に供するもので、定まった標準を示すものではありません。

### <実施経過>

注：以下内容的なまとまりを付けるために、実施順と異なって記載しているところがあります。

#### 1. 今回訓練実行の決定 8月11日(月)

蜂谷戸支隊の第一回スタンドパイプ訓練を9月21日(日)14:00~16:00に行なうことを蜂谷戸支隊防火消火班活動隊員全員ミーティングで決定、その議事録をもって支隊の全支隊長に連絡、長谷川隊長、中泉副隊長、他支隊代表支隊長、および本部事務局にもCCした。

#### 2. 訓練計画の練り上げとまとめ 8月30日(土)

1. の決定のあと訓練計画を練り始め、防災訓練計画書「蜂谷戸支隊 第1回スタンドパイプ放水訓練 2014年8月30日」としてまとめた。……………後に添付

#### 3. 町田消防署南出張所 8月12日(火)

- a. 防災訓練等通知書(兼消防署受付証)……………後に添付
- b. 訓練場所の地図(コピー2部)……………後に添付
- c. 作業帯図 (消防署の指摘により一部手直しして4-(2)c. として完成させた。同資料参照)

\* 消防署より近隣への周知を要請された。

#### 4-(1)町田警察署(相談) 9月1日(月)

申請書類の用紙を入手し、書き方を教えてもらう。

#### 4-(2)町田警察署(申請) 9月9日(火)

- a. 町田消防署の防災訓練等通知書(兼消防署受付証)(コピー2部)……………(3. a. 参照)
- b. 訓練場所の地図(コピー2部)……………(3. b. 参照)
- c. 作業帯図(完成版・コピー2部)……………後に添付
- d. 道路使用許可申請書(印鑑2カ所必要)……………(4-(3)f. 参照)
- e. 道路使用許可手数料免除申請書(1部)……………後に添付

(上記のうち a. b. は 3. で作成したものを使う。)

4-(3) 町田警察署(交付) 9月11日(木)

- f. 道路使用許可申請書兼許可証(受取りに印鑑必要)……………後に添付
- g. 許可条件……………後に添付

5. 町田市防災安全課(市庁舎3F)(申請→交付) 9月9日(火)

- a. 防災訓練(起震車使用)等(申請書兼)承認書……………後に添付  
(4-(2)a. の防災訓練等通知書(兼消防署受付証)のコピー提示が必要)

6. 長谷川隊長への訓練内容の説明と、隊長名で近隣自治会に挨拶状を出す(3. の\*に従う)ことの隊長の了解 9月6日(土)

7. 近隣自治会への訓練実施の周知・挨拶 9月7日(日)

町田コープタウン自治会早坂会長に、長谷川隊長と共に小林代表支隊長が挨拶状をもって挨拶し、周知をはかった。

- a. 町田コープタウン自治会宛挨拶状……………後に添付

8. スタンドパイプ放水訓練実施 2014年9月21日(日)14:00~16:00

9. 結果報告書作成・配布 10月2日(水)

スタンドパイプ放水訓練結果報告書を作成、参加者・見学者、支隊の全支隊長に配布、長谷川隊長、中泉副隊長、他支隊代表支隊長、および本部事務局にもCCとして配布した。

- a. 結果報告書……………後に添付

以上 蜂谷戸支隊 小林(代表支隊長・現場責任者)・清水(現場副責任者) 記

\* 末尾に 当日訓練の様子 写真添付

## 防災訓練計画書

### 蜂谷戸支隊

#### 第1回 スタンドパイプ放水訓練

2014年8月30日

#### 1. 目的

参加者全員が、スタンドパイプの設置・操作を、自分たちの手で相互に連携して行うことで、効果的な消化活動ができるようにする。

\*今回は初回訓練のため、支隊長、活動隊員、防火班を中心に募集し、給水、放水の部分的な基本操作に限定して行なう。

#### 2. 日時

2014年9月21日（日） 午後14:00～16:00（2時間）
----------------------------------

\*雨天中止の場合、参加者への連絡はしません（不明の場合は支隊長へ連絡して下さい）。  
また、当日支隊長は消防署及び南出張所の竹内さんに連絡（042-795-0119）。

#### 3. 場所

小川2丁目13番地（消火栓設置場所、別紙作業帯図参照）

\*Cブロック（7支部1班）に回覧する。【表紙+本体+作業帯図（途中経過）】

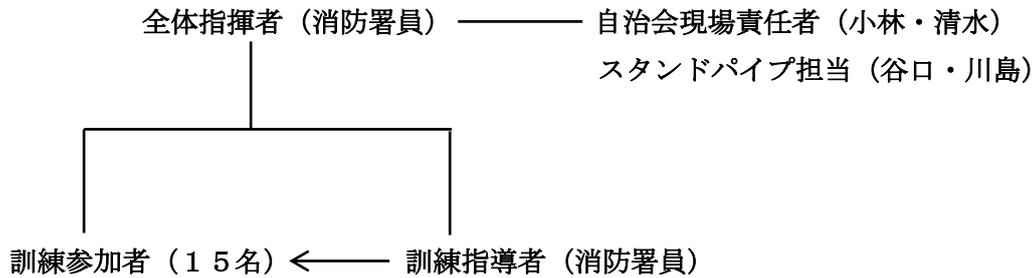
\*コープタウン自治会に連絡書を出す。【表紙+本体+作業帯図（途中経過）】

#### 4. 参加者

訓練参加者15名、町田消防署員3名（訓練指導者1名、他2名）

その他見学者

## 5. 当日訓練組織



\* 訓練参加者は、訓練指導者から直接、丁寧な指導を受けて訓練を行う。

\* 訓練参加者（15名）は、情報班、避難班、救出班、防火班Ⅰ、防火班Ⅱから選出

\* スタンドパイプ担当は、SPの搬出、運搬を担当

## 6. 時間割

(1) 14:00～14:05 (5分)

開始挨拶、訓練概要 (町田消防署)

(2) 14:05～14:15 (10分)

スタンドパイプの構成操作説明、注意事項 (町田消防署)

(4) 14:15～15:45 (90分)

スタンドパイプによる給水・放水訓練 (訓練参加者全員、町田消防署)

(5) 15:45～15:50 (5分)

訓練総括、終了挨拶 (町田消防署)

## 7. その他

当日の服装は、任意 (訓練に適したものであればよい)。

## 給水・放水訓練内容と時間割り

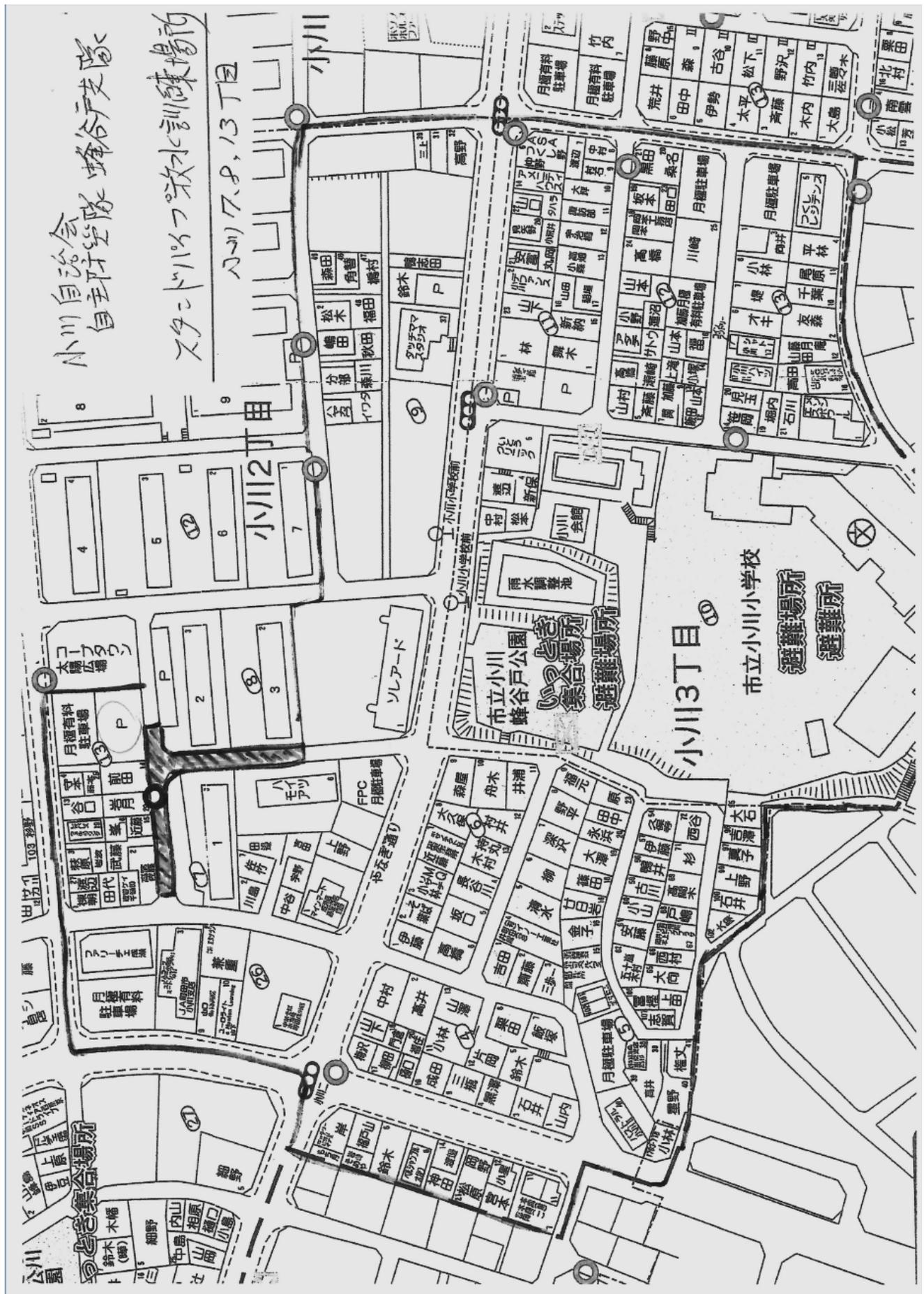
\*スタンドパイプ・スピンドルドライバー・ホース・筒先を所定位置に準備

5分	挨拶など			
10分	消火栓蓋操作	消防署員+3人の男性	操作指示通りやれば、簡単	
5分	消防署員の模範演技			
訓練 I	30秒	スタンドパイプ	吐水口にスタンドパイプをはめる スタンドパイプを一度上方へ引っ張り、確認する	スタンドパイプの重さを実感 どれが「吐水口」かを確認
	30秒	スピンドル ドライバー	スピンドルドライバーを放水弁に嵌め、 左回りに少し回して、水が出ることを確認	スピンドルドライバーの重さを確認 どれが四角い「放水弁」を確認
	*ホースは傍に置いてある。			
	30秒	ホース	スタンドパイプ本体にホースの結合します カチッと音がします。一度引っ張って確認。	ホースの(♂/♀)口を確認
	60秒	ホース スタンドパイプ スピンドル	ホースを外し、元あったところに戻す 吐水口から外し、元のあったところに戻す 元に有ったところに戻す	外し方を習得 外し方を習得
40分	2分30秒	×15人	40分	
5分	訓練 I ⇒ 訓練 II へ移動	5分	*ホースはこの時引く。	
5分	消防署員の模範演技			
訓練 II	30秒	筒先	筒先をホースに付ける	筒先の重さを体感、
	20秒	開始	「放水はじめ！」の発声、腕をまっすぐ上に延ばす	放水開始・停止の方法実践 水の勢いを体感 直線放水・噴霧機能実感
	40秒	放水		
	20秒	停止	放水合図を送ったら、体勢を整えて待つ	
30秒	筒先	「放水止め」腕を下げて知らせる。ホースから取り外し		
40分	2分20秒	×15人	35分	
合計 1時間50分(110分)				

(原資料はA4横サイズ)



添付資料 3. b. 訓練場所の地図





添付資料 4-(2)e. 道路使用許可手数料免除申請書

別記様式 (第3条関係)

年 月 日

警視庁 所田警察署 長殿

(申請者) 小川自治会 自主防災隊 蜂谷支隊  
住所又は所在地 田田市小川2-6-3  
氏名又は名称 川林 勝美 印  
連絡先 (電話番号) 042-791-1596

道路使用許可 手数料免除申請書

下記のとおり手数料の免除事由に該当するので、関係資料を添えて申請します。

手数料免除に該当する事由

- 国
- 地方公共団体
- 生活保護を受ける者
- 災害等不時の事故によって生計困難になった者
- 中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律 (平成6年法律第30号) の規定により支援給付を受ける者
- 集会、集団行進及び集団示威運動に関する条例 (昭和25年東京都条例第44号) に基づき東京都公安委員会の許可を受けた場合
- 応急の工事又は作業
- 簡易の工事又は作業
- 公益目的の行為
- 国又は地方公共団体が行う人命救助に供するための救命索発射銃の所持について許可を受けようとする者又は受けた者

- ※ 該当する事由(2以上に該当する場合はすべての事由)の□にレ印を付してください。
- ※ 申請者が国及び地方公共団体の場合は、申請者欄に当該申請者の所属する機関の部署名を記載することで関係資料とします。

確認結果

上記の申請は、事情聴取の結果、警視庁関係手数料条例第3条の規定に基づく免除事由に該当するものと

- 認め、手数料の徴収を免除します。
- 認められません。

(所属長) 警視庁 \_\_\_\_\_ 長  
警視 \_\_\_\_\_ 印  
(確認者) 警視庁 \_\_\_\_\_  
警視 (警部) \_\_\_\_\_ 印

添付資料 4-(3)f. 道路使用許可申請書兼道路使用許可証

別記様式第六

道路使用許可申請書			
		平成 26 年 9 月 9 日	
		町田警察署長殿	
		八王子自治会自主防犯隊 蜂谷支隊	
		住所 町田市小川 2-6-3	
		申請者氏名 小林 勝美 	
道路使用の目的	スタッドパイク使用による防災訓練 (指導 町田南警察署 南地区所)		
場所又は区間	町田市小川2丁目13番～7番先路上		
期 間	平成26年9月21日 14時から平成26年9月21日 16時まで		
方法又は形態	スタッドパイクにホースを接続して、小川モア路上に夜水ホース延長20m, 参加人員20名		
添付書類	○案内図(地図) ○作業帯図 ○防災訓練等通知書の写し ○手数料免除申請書		
現場責任者	住 所	町田市小川 2-6-3	
	氏 名	小林 勝美	電話 (096)6596
第 8219 号 道路使用許可証 上記のとおり許可する。ただし、次の条件に従うこと。			
条 件		別紙のとおり	
		平成 26.9.11 日	
		警視庁町田警察署長 	

- (備考)
- 1 申請者が法人であるときは、申請者の欄には、その名称、主たる事務所の所在地及び代表者の氏名を記載すること。
  - 2 申請者は、氏名の記載と押印に代えて、署名することができる。
  - 3 方法又は形態の欄には、工事又は作業の方法、使用面積、行事等の参加人員、通行の形態又は方法等使用について必要な事項を記載すること。
  - 4 添付書類の欄には、道路使用の場所、方法等を明らかにした図面その他必要な書類を添付した場合に、その書類名を記載すること。
  - 5 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。



## 許 可 条 件 (消 防 演 習)

### 1 許 可 日 時

平 成 26 年 9 月 21 日 の

午 前・後 2 時 00 分 から

午 前・後 4 時 00 分 まで。

2 演習中、消防自動車等の駐車等の駐車により、一般交通の障害となる場合は、できるだけ避けること。

やむを得ない場合は、事前に迂回路を設定し、交通整理員を配置して車両等の誘導を行なうこと。

3 曲がり角または、交通上危険な場所には、交通整理員を配置して、交通事故防止につとめること。

4 その他、交通上の問題について、現場警察官の指示がある場合は、その指示に従うこと。

添付資料 5. a. 防災訓練(起震車使用)等(申請書兼)承認書

防災訓練(起震車使用)等承認書

訓練日時	26年 9月 21日 日曜日 14時00分 ~ 16時00分	
訓練場所	所在地 町田市 小川2丁目13番	参加予定人数
	名称 (道路上)	20名 [起震車・職員派遣は20名からとなります]
訓練内容	1. 避難訓練	<input type="checkbox"/> 防災訓練への派遣である (不特定多数の人数が参加するイベント・祭事への派遣はできません) <input type="checkbox"/> 駐車場所の確保ができる <input type="checkbox"/> 職員による乗車前の説明時間の確保ができる ※起震車の運行時間 午前の部 9:00~11:30 午後の部 13:30~16:00
	2. 震度体験(起震車) → 起震車訓練開始時間 ( 時 分 )	
	3. 防災講演会 →	ビデオ・DVDの貸し出し希望 ⇒ <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 職員による講演の希望 ⇒ <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 会場の映像機器・スクリーン等 ⇒ <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
	4. 給食給水訓練 →	アルファ化米の使用希望 ⇒ <input type="checkbox"/> あり( 人分) <input type="checkbox"/> なし
	5. 初期消火訓練 6. 救出救護訓練 7. 応急救護訓練 8. 通報訓練	2(起震車体験)及び5~8の訓練を行う場合は別途、町田消防署へお申し込みください。 電話 : 042-722-0119
	9. その他 (具体的に: スタンドパイプ放水訓練 )	
消防団の派遣	消防団の派遣が必要ですか? <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ	
上記のとおり、防災訓練(起震車使用)等を承認します。		
町田市長 石坂 丈一		26年 9月 9日
申請者	団体名 小川自治会 自主防災隊 峰谷戸支隊 担当者名 小林 勝美 住所 町田市小川2-6-3 電話(当日連絡が取れるもの) 090-4771-8455 ※訓練内容の確認等で、消防団及び起震車ドライバーから連絡がある場合があります。	

## 防災訓練に関するお願い

2014年9月7日（日）

小川自治会 自主防災隊  
隊長 長谷川 義剛  
蜂谷戸支隊  
支隊長 小林 勝美

町田コープタウン自治会 御中

9月に入り、秋の気配が次第に濃くなってまいりましたが、皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、私ども小川自治会 自主防災隊 蜂谷戸支隊は、今般下記のとおりスタンドパイプの放水訓練を計画しており、支隊の隊員の防災意識の高揚と対応能力の強化を図って参りたいと考えています。

つきましては、この度の訓練場所が貴自治会のコープタウンの周辺のため、貴会員の皆様におかれましては、ご不便をおかけすることがあるかもしれません。

私どもはご迷惑を掛けないよう細心の注意を払いますので、何卒ご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、お気付きの点がありましたら 下記までご連絡をいただけますようお願い申し上げます。

日時： 9月21日 日曜日 午後14時から16時まで

場所： 小川2丁目3番地からコープタウン周辺にかけて（別紙地図参照）

訓練内容：スタンドパイプによる放水訓練  
（ホースを消化栓に差し込んで放水する消火機材）

参加者：町田消防署、蜂谷戸支隊 おおよそ20名程度

連絡先：蜂谷戸支隊 代表支隊長 小林 勝美（090-4171-8455）

添付資料2-(2)c. 作業帯図を簡略化したもの。  
添付略

以上

## 蜂谷戸支隊 スタンドパイプ放水訓練 結果報告書

平成26年10月2日

蜂谷戸支隊

小林勝美・清水 修

### 1. 目的

今回は初回訓練のため、支隊長、活動隊員班長、防火消火班を中心に参加者を募集し、全員にスタンドパイプの放水にかかわる部分的な基本操作に限定して行なった。

### 2. 実施日時

2014年9月21日（日）14:00～16:00（2時間）晴天

### 3. 場所

小川2丁目13番地（消火栓設置場所、別紙作業帯図参照）岩月宅前

### 4. 連絡届出

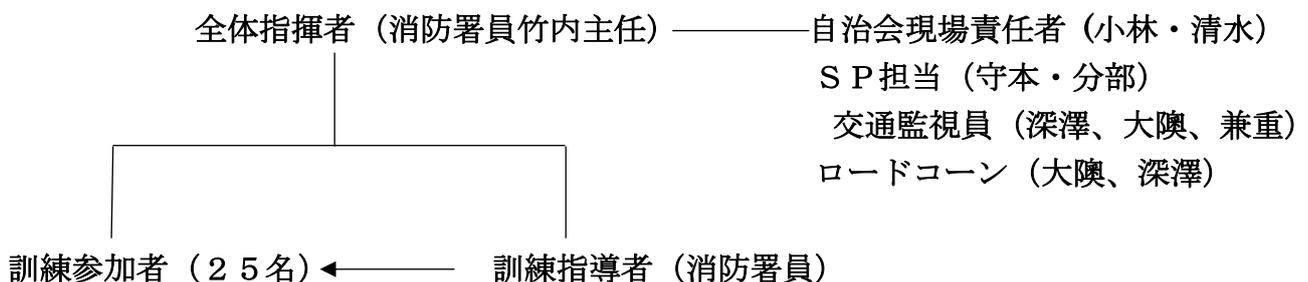
8月12日 町田消防署南出張所に申込み

9月7日 町田コープタウン自治会長へ連絡（近辺自治会へ連絡挨拶）

9月8～9日 CDブロックへの連絡（見学勧誘）

9月11日 町田警察署へ「作業帯図」提出（道路使用許可）

### 5. 当日訓練組織



### 6. 参加者

町田消防署員5名

訓練参加者25名、

情報広報班 3名、避難誘導班 2名、救出救護班 2名

防火消火班15名、7支部1班2名 その他1名 合計25名

<訓練参加者グループ>

グループ	色	リーダー	メンバー1	メンバー2	メンバー3	メンバー4
情報・広報	金	金子郁夫	高井千代子	分部貴子	瀬崎さん	小林克子
避難・誘導	茶	飯田 弘	黒田皓三	堤 光雄	加藤 登	福田順彦
救出・救護	桃	山澤興英	前田 功	清水 修	深澤 寛	佐藤 健
防火1	赤	守本令史	守本悦子	山口頼彦	高間木実良	兼重さん
防火2	青	大隲誠一	久保寺さん	吉澤さん	高杉英興	小林勝美

- <見学者> .....他支部の支隊長、7支部1班の隊員など 合計15名
- ・蜂谷戸支隊：大久保さん【写真撮影】、坂本さん、吉田さん、山澤さん、石井さん
  - ・支隊長：甲斐さん（かえで）、窪田さん（せんげん）、小林（洋）さん・横田さん（柳谷戸）
  - ・本 部 : 林さん、勝又さん（青パト）
  - ・7支部1班 : 岩月夫妻、加藤さん、吉田さん（2人）

7. 訓練の経過推移

<事前準備> :

- 13:15 小川会館前に訓練スタッフ  
(現場責任者、SP担当、交通監視員、ロードコーン担当) 集合  
当日訓練の注意事項確認、倉庫からSP等の搬出・運搬
- 13:30 ロードコーンの設置 (車両通行人へ規制区域・時間の表示)
- 13:45 消防車到着

<訓練開始> :

- 14:00 訓練概要、注意点 (町田消防署)
- 14:05 消火栓開閉訓練 (参加者 深沢・福田・清水・久保寺4名)
- 14:15 ① スタンドパイプの消火栓接続・確認・切離し  
② ホースのスタンドパイプ接続・確認・切離し  
③ 筒先のホース接続・確認・切離し

①～③を全参加者がグループ別にリストの順番に従って体験した。

- 15:00 ④ 消火栓の給水開始・停止 (開始合図、停止合図確認)  
⑤ 筒先の放水開始・停止 (開始合図、停止合図発信)

④～⑤を全参加者がグループ別にリストの順番に従って体験した。

- 15:30 消防署による講評、訓練終了解散

8. 訓練評価

概要：初回訓練としての当初の目的を十分な達成できた。予定参加メンバー全員がスタンドパイプの基本操作を積極的に体験し、自信を持って訓練を終えた。

## (1) 参加者

- ① 参加予定メンバー25名全員がほぼ定時まで集合した。
- ② 参加者全員の意識が高く、積極的に訓練に参加した。
- ③ 見学者も十数名参加し、関心が高く、一部が訓練に加わった。

## (2) 訓練内容

スタンドパイプの給水・放水にかかる基本的な操作訓練を、消防署員の指導のもとに、すべての要素を一通り、確実に、全員が体験できた。

## (3) 訓練環境

放水場所は予定どおり周辺に迷惑を掛けずに十分な放水距離を確保できた。  
訓練中の車両の出入りも数回あったが、訓練表示、車両誘導も上手く行った。

## (4) 訓練時間

訓練時間もほぼ予定通り。当初予定の操作訓練を時間内に余裕を持って完了することができた。

## (5) 訓練組織

- ① 責任者の訓練誘導・整理が機能し、全体的に訓練が整然と行われた。
- ② 消防署の指導も具体的、実践的で、十分なアドバイス、サポートが行なわれた。
- ③ 参加者をグループ別に順番に待機させたため、最初の人操作を次以降の人が近くで十分に見学でき、習熟度が高まる訓練が行えた。
- ④ グループ別にタスキの色分けがされたので、訓練の進捗が把握しやすかった。

## (6) その他

アルファームの配布が給食班との連携で実現、参加モチベーションにつながる。

## 9. 改善課題

### (1) 参加者

- ① 参加者の確認、また参加者相互の交流に資するため名札、腕章をつける。
- ② 見学者の参加記録を残す。(組織表の○を付ける方法か署名)
- ③ 年齢、健康、服装など、安全面から無理させないために事前注意を促す。  
(熱中症など)

### (2) 訓練内容

- ① 消化栓蓋(丸型)の開閉の訓練を次回以降、多くの人に体験してもらう。  
(ただし、消火栓蓋は予想以上に重いので、高齢者女性等には注意)。  
消火栓は丸形と角型があり、開け方も違うので、今後、角型も考慮に入れる。
- ② 消火栓の給水確認の操作をスタンドパイプ接続の前に組み入れる。
- ③ いずれ、ホースを複数本使用した訓練(合図を中継する要員を置く)を行なう。
- ④ 安全面から放水担当を補助する要員を必ず置く、補助する位置も確認する。

- ⑤放水開始・停止の合図の発声、確認の発声の徹底、および“放水開始”、“放水止め”など合図葉を消防署の指定通り統一し、周知する。
- ⑥スピンドルドライバーについての構成説明が必要。コストダウンのため、消火栓の十字鍵とピンドルドライバーが兼用になっている。スタンドパイプとの高さが同じため、回転動作がしづらい。これは直さないといけない。
- ⑦ホースの巻き方、給水担当者と放水担当者の手順・合図のやり方は次回に検討したい。
- ⑧訓練終了後に、スタンドパイプ1式のすべての部材が所定の位置に格納したかを確認し、記録を残して、格納忘れを防ぐやり方を考える必要。(ホースも含む)

### (3) 訓練環境

- ①ロードコーンのA4の注意表示をA3にして分かりやすくする。
- ②交通監視員、見学者整理員が訓練をする場合の引継ぎ者を決めておく。
- ③放水場所、放水方向は、現場責任者が当日現場の状況を再確認する。

(風の向き、洗濯物の有無を考えて、標的のロードコーンを置く)④車両誘導の場合は、駐車場所、走行方向などを丁寧に確認し、状況によっては訓練を中止、迂回をお願いなど、現場責任者は交通監視員と手順を事前確認が必要。

### (4) 訓練時間

実際の操作時間の記録をとる担当が必要。他支隊との共有情報になる。

### (5) 訓練組織

グループリーダーの役割明確化(今後習熟後のメンバー指導、連携動作促進)  
グループリーダーおよび交通指導員の識別(100円の腕章の準備)

### (6) その他

- ①メガフォンは、20名程度の訓練では特に必要としない。
- ②リアカーの組み立て、格納が判らない(説明書が倉庫にあるかの確認、訓練が必要)
- ③効果について、参加者の意見を聞き、次回に活かす。

以 上



当日訓練の様子

